

演題名 : 当協会におけるヘリコバクター・ピロリ除菌療法の現状について

○福島 京子¹⁾、安達 清子¹⁾、佐藤 寿子¹⁾、佐藤 浩司¹⁾、阿部 純一¹⁾、星 健也¹⁾、小原 勝敏²⁾、鈴木 仁¹⁾

1) 財団法人福島県保健衛生協会

2) 福島県立医科大学内視鏡診療部

【目的】ヘリコバクター・ピロリ菌（以下、ピロリ菌）感染は、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などとともに、胃がんの発生にも密接な関係を有するとされているが、今回、健診時にピロリ菌の有無を検索し、必要に応じて除菌療法を行ったので、その結果を報告する。

【方法】平成21年4月6日から22年7月14日までの1年3か月間に、当協会総合健診センターで胃内視鏡検査により、消化器疾患および、医師がピロリ菌の有無の確認を必要とした受診者に対し、以下の手順で実施した。

- 1) ピロリ菌の有無を迅速ウレアーゼ検査または、便中H・pylori抗原検査で行った。
- 2) 本菌陽性者にはピロリ除菌療法を勧めた。
- 3) ピロリ除菌は、プロトンポンプインヒビターと抗菌薬2種類を1週間服用させる除菌療法で行った。
- 4) 1回目の服薬で除菌が得られなかった場合は、抗菌薬の種類を変えて二次除菌を行った。

【結果】胃内視鏡検査実施者2,503名中、ピロリ菌検査を実施した者73名（2.9%）、うち迅速ウレアーゼ検査62名（84.9%）、便中H・pylori抗原検査11名（15.1%）であった。ピロリ菌陽性者は46名（63.0%）、うち迅速ウレアーゼ陽性40名（87.0%）、便中H・pylori抗原陽性6名（13.0%）であった。ピロリ菌の一次除菌を実施した者15名（32.6%）、除菌成功者12名（80.0%）、除菌失敗者3名（20.0%）、二次除菌を実施した者は2名で、除菌成功者1名（50.0%）、除菌失敗者1名（50.0%）であった。

【考察】胃がん予防とピロリ菌除菌の関連として、1)胃がんの発生を低下させる可能性がある。2)若年者に有効である。3)高齢者も胃の老化阻止に有用

である。4) 胃粘膜がきれいになり、がん発見が容易になるなど除菌療法の効果が示されている。抗菌薬を1週間続けて服用し、その間、飲酒を控えることが絶対条件であるが、除菌の成功率は70%から80%だと言われている。当協会での成績では、成功率は一次、二次合わせて86.7%であったが、まだ、実施件数が少ないので、さらに検討していきたい。

また、ピロリ菌感染が判明していても、実際に除菌を受けた者が少なかったが、これはピロリ菌に対する関心の薄さを伺わせた。

胃がんの発生に、密接な関係があるピロリ菌感染の検査および除菌療法は、胃がんの発生予防に効果的であることから、今後、当協会の胃内視鏡検査受診者に対し、ピロリ菌検査の必要性を十分に説明し、検査結果陽性者への除菌療法への勧奨を進めていきたい。